



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第170号

発行:2020年6月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

安心できる医療体制の構築を目指して

フジヤマ病院 事務次長 小林 憲



静岡県富士宮市4事業所（フジヤマ病院・介護老人保健施設リバブルケア・介護老人保健施設いかる野・居宅介護支援事業所フジヤマ）が「医療法人社団鵬友会」の一員として再スタートして5年目を迎えました。

この間、フジヤマ病院では大規模な耐震工事・外壁塗装・病院駐車場整備が行われ、構造設備強化・整備が行われました。更に昨年は、3階病棟（地域一般入院基本料病棟）の大規模な改修工事が行われ患者様の入院環境（病棟シャワー室新設・全病室のリフォーム等）や職員の職場環境（看護職員休憩室改修・ナースセンターリフォーム・サブステーション新設）が行われ、大きく変化しました。同時に、オーダーリングシステムを導入し、医師・看護職員・コメディカル・事務員の事務的作業の負担軽減、伝票の記載ミスやコスト算定漏れといったリスク防止の改善が行われ、病院として安心して患者様に医療提供できる体制が整備されつつあります。

そのような中、今年に入り新型コロナウイルス感染症が世界的規模で感染拡大し緊急事態宣言が発令されました。静岡県内では5月25日現在PCR陽性者患者数75名が確認され、富士宮市（人口13万人）では3月31日県内9例目となる感染者が確認されたのち、その後9人の陽性者が確認されました。10人という数字は政令指定都市である静岡市（人口69万人）の20人につぐ数字であることから当院では緊急院内感染会議を数回開催し、患者導線のため正面玄関のみ出入り可能とし、受付での体温測定・手指消毒・マスク着用を患者様・ご家族様

に徹底し行いました。また、発熱等の患者様に対し院内トリアージを行い、発熱外来専用スペースにて対応するよう徹底いたしました。「3密」を避けるため職員は職員食堂で一定の方向で座るよう椅子を配置、時間差での飲食、休憩時間も重ならないよう工夫対応しました。

このような中、鵬友会事業所間でサージカルマスク等の感染防具の在庫状況の共有・防具の提供、また神奈川県での感染状況・対策情報の共有を行うことにより静岡県の情報のみではなく県外の情報を共有することにより感染対策を強化することができました。富士宮市では「感染対策地域連携カンファレンス」に看護師・検査技師がWeb参加し医療現場での対応、地域でのコロナ対策の情報共有を図り、また富士宮市医師会では屋外PCR検査場（ウォークスルー）が5月20日に開設され、当院からも4名の医師が参加し地域の先生方との連携を密にし、感染防止対策の強化に努めています。

根本院長が緊急事態宣言発令後、職員の新型コロナウイルスに対する不安を払拭するために、定期的に「正しく恐れる」「医療従事者。」「心の感染。」「尊敬。」「コロナテスト。」といったニュースレターを全職員に向けて発行・配布しています。その中で「抱いている不安は誰かにぶつけるのではなく、みんなで共有し和らげる。」という言葉を忘れずに、私達医療従事者は浮足立つことなく、粛々と目の前の仕事をこなし安心して医療を提供できるよう、今後もみんなで対応し努めていきたいと思えます。

介護施設における感染対策（例）

もし、介護施設で新型コロナウイルスによる感染が発生したら、2次感染を防ぐのは、医療機関よりもハードルが高いといえるでしょう。介護の現場は「密」避けられず、医療よりも介護は濃厚な密着が必要で、食事・入浴・排せつの介助をしたり、耳元で話さないと介護できない方もいます。また、入所者には認知症の人も多く、認知症の人が施設内を歩き回れば、感染者がいるエリアとそうでないエリアを分けることができません。さらに、医療機関と違って専門家が少なく、マスクや防護服などの感染防護具が不足する中、感染防御の知識に乏しいスタッフも現場に立たざるを得ません。

そこで、介護施設における感染対策を、いろいろな情報を基に端的にまとめてみました。（参考）

①現状把握

- 【 人 】 ・体調はどうか。家族に何か症状はないか。
 - ・感染対策の知識は？（手指衛生、防護具の着脱、マスク着用）
 - ・人員が不足した場合の対策は？（濃厚接触等による離脱）
- 【 物 】 ・防護具（マスク、ガウン、手袋、ゴーグル）、アルコールの在庫
 - ・調達計画は？
- 【 建物 】 ・換気の悪いところ、3密になる場所、換気扇の確認
 - ・多くの方が触れるところの確認、食事方法（対面にならないように）
- 【 連絡 】 ・もしもの時の連絡先は？ 入院候補先は？

②会 議 ・その都度、情報の共有と今後の方針を検討

③ウイルスの持ち込みを防ぐ

- ・面会制限 ⇒ 利用者と家族とのテレビ電話を活用
- ・スタッフの体調管理 ⇒ 体調が悪ければ必ず休ませる
- ・休んでいる人や入所者の発熱者をグラフ化

④早期隔離 ・症状があれば、隔離する ・新規入所者の隔離観察

⑤もしもの時の指揮命令系統の確認、シミュレーション

『 施設で具体的にできること 』

①勉強会（防護具の着脱方法、感染者がでた場合の何通りかのシミュレーション）

②業務内容のマニュアル作成

- ・新しいメンバーが入った時にすぐに業務に入られるようにする
- ・直接顔を合わせず、情報交換できる方法をもつ（自宅待機者が増えたときのため）

③感染対策を担当する人による巡回（不安軽減）

④物品の在庫リスト（毎日）

⑤基本的対策

- ・ 飲食時は他者と距離をとる
- ・ 飲食以外はマスクを外さない。
- ・ 共有物のこまめな消毒
- ・ 換気（可能であれば窓は2カ所以上あける）

参考までに

横浜クルーズ船での調査で
新型コロナウイルスの遺伝子が多く検出された場所



まくら



TVリモコン



電話受話器



机



椅子の取手



トイレ周囲